



Christian Science Sentinel, March 23, 2009

転落による怪我が、癒される

Healed after a fall

何年も前のある朝のこと、当時、息子と2人の孫と一緒に住んでいたのですが、私は家の階段で、つまずき、転んでしまいました。転んだとき、足がボキッといったのが聞こえ、それと同時に、ものすごい痛みを感じました。すぐに孫に、お隣に行って、助けを頼んでくれるように言いました。

助けを待っているあいだ、メリー・ベーカー・エディ著の『**科学と健康**—付聖書の鍵』の中にある「存在についての科学的声明」を用いて、心から祈っていました。それは、「物質には、生命も、真理も、知性も、実質もない」(p. 468)という言葉で始まります。私は、自分が滅びるもの、骨や、その他の物質からできた肉体の存在ではないことを、確認していました。神の子として、私の存在は100%霊的で、そこには、骨折や脱臼の可能性はまったくないのです。

お隣の人が来てくれると、まず、電話を私の手元まで持ってきてもらい、私は**キリスト教科学**の実践士に電話をして、科学的祈りを通して助けて欲しいとお願いしました。それから、お隣の人は、私が居間のソファまで行けるように、手を貸してくれました。

傷口の手当をするため、**キリスト教科学**の看護師に来てもらうよう、手配しました。看護師は、私の足に包帯を巻きながら、聖書と『**科学と健康**』のなかの助けとなる言葉を、声に出して言ってくれましたが、それに大変慰められました。

Author's Name / Norma Cooper

他の日本語記事については、次をご覧ください: <http://www.spirituality.com/christiansciencesakigake/index.jhtml>

© 2009 The Christian Science Publishing Society (CSPS). この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事メール (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事の他の出版物に転載する許可を得るには、copyright@csp.com宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

私は、また、次の引用文を熟考していました：「事故について、**神**、すなわち不滅の心は知らない
のである、そこでわたしたちは人間的基礎に立つ信念を捨て、唯一の心と一体にならなければなら
ない、こうしてこそ偶然というものはなく、すべては**神**の誤りない指示によるという正しい観念に
考えを変えて、調和をもたらすことができるのである」(『**科学と健康**』、p. 424)。

私は、**神**が、すべてを常に加護し、管理していること、それゆえ、私の変わらない調和と健康が、
自分にも、はっきり見えるはずであることを、認識していました。私は、家族の者たちが、医師に
診断された糖尿病、心臓疾患、前立腺ガン、奥歯のひび、歯の根幹の感染、偏頭痛など、**キリスト教
科学**で癒されているのを見てきたので、安心して、**キリスト教科学**の祈りに頼ることができました。

夕方、息子が夕飯の用意をしてくれ、私ができるだけ楽になるように、助けてくれました。痛みの
ため、足首も、つま先も、動かすことができず、そして足に体重をかけることができませんでした。
夕食ののち、8歳の孫娘が、私に何か読んであげてもいい？ と聞いてきました。彼女は、夜の8
時まで、詩篇を読んでくれて、それから寝床を整えてくれました。子どもが持つ純粋さと、優しい
気遣いに、どれほど勇気づけられたことでしょう！

2時間ほどしたとき、足の痛みが非常に激しくなったかと思うと、突然、痛みが消えてしまいまし
た。その瞬間、私は癒されたことを感じました、また、**キリスト教科学**で **心的外科手術** と呼ぶも
のを、体験したことが分かりました(『**科学と健康**』、p. 401-402 参照)。私の祈りと実践士の祈
りを通して、複雑骨折していたらしい骨が、調整されたのです。体重をかけることもできて、足首
も、つま先も、痛みを感じることなく、動かすことができました。

ところが翌日の午後、同じ階段を降りながら、また転んで同じ足を痛めてしまったのです。足が、

Author's Name / Norma Cooper

かなり腫れて、変色してきたので、息子に近くの病院に連れて行ってもらいました。

医師を待つあいだに、これまでの病歴などについて書き込む書式を渡されました。医師は、私が、過去 34 年間、何の投薬もいっさい受けていないことに気づき、簡単な身体検査をしたあと、私は非常に健康であるとの診断を下しました。それから、私の足を診察し、私を、レントゲン室に送りました。

かなりの時間、待たされたのち、医師は、レントゲン写真を持って戻ってきました。彼は、骨折の痕はあるが、その骨が完全につなぎ合わされ、すでに治癒し始めている、と嬉しそうに言ってくれました。それから、足に包帯を巻き、その足で、どのように歩くかを教えてくれました。

それから何日か、私は、祈り続けました。次のような考えに支えられ、導かれていました：「**神**は、「すべてにおける**すべて**」である；そして、天におけるように地上においても、**神**が全能で、至上である」（『**科学と健康**』、p. 17）ということです。**神**が統治していること、そして、私の存在のすべてを支配していることを、確認しました。

2 回目に転んだ 3 日後、私は 10 人のお客さまのためにクリスマス・イブの夕食を用意しましたが、何の痛みも無く、普通に歩くことができました。それから、何年も経った今、私は、80 代で、幸せに、健康に、活発に、また、足に何の不自由もなく過ごしています。

米国、フロリダ州、ナイスビル

ノーマ・クーパー

Norma Cooper

Author's Name // Norma Cooper